Press Release

RECRUIT 株式会社リクルート

2024 年 4 月 23 日

「働く喜び調査 2013―2023 年の変化」レポートを公開

働く喜びを必要とする人は 8 割以上だが、実際に感じている人は約 4 割
“職場に自分の居場所がある”といった「役割・居場所」に関わる実感は減少傾向

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）では、2013 年より毎年、全国の 15 歳～64 歳の就業者約 5,000 人～12,000 人を対象に仕事に関するアンケート調査を行っています。本レポートでは 11 年分の経年データを基に、働く人の喜び実感の状況やその影響要因の変化について報告いたします。なお、2023 年調査の調査期間は、2023 年 12 月 22 日（金）～2023 年 12 月 27 日（水）です。詳細はレポート本編をご参照ください。

「働く喜び調査 2013―2023 年の変化」レポート概要

■レポートはこちら：
https://www.recruit.co.jp/newsroom/pressrelease/assets/20240423_work_04.pdf

目次

- はじめに
- 調査概要
- 働く喜び 2013～2023 年の変化
- 例年 80％以上の人が働く喜びを必要と感じている
- 仕事を自分で選んだ実感があるか／自分ならではの持ち味を生かせているか
- 日本の“働く”の Good と Motto
- キャリアの「不安」と「働く喜び」
- ウェルビーイングと組織の生産性
- 人材の成長と組織の生産性
- 生き生き働くための 7 つの要素とは
- 働く喜びを感じている人とそうでない人の差
- 働く喜びを高めるメカニズム
- おわりに

解説者：リクルート　HR 横断リサーチ推進部　研究員　菊池 満帆

今日、労働市場においてウェルビーイングへの関心が高まっています。リクルートは 2013 年から個人の「働く喜び」に関する調査を実施し、11 年分の経年データが集まりましたので報告させていただきます。
今回の調査で、「働く喜び」を必要とする人が毎年約 8 割以上いるにもかかわらず、実際に「働く喜び」を感じている人は約 4 割にとどまり、11 年間あまり変化していないことが分かりました。
一方で「働く喜び」を構成する各項目の実感割合は少しずつ変化が見られます。
「思い続けてきた希望がかなえられている」「仕事の内容に見合った収入を得ている」といった自己実現や労働条件などに関連する一部の項目では実感している人の割合が増加傾向にあり、「職場に自分の居場所がある」といった自分の役割や居場所に関連する一部の項目は減少傾向にあることが分かりました。働き方改革の後押しもあり、各企業で働く環境の整備や労働条件の改善が進んだ一方で、組織への帰属意識や、上司と部下、同僚同士の信頼関係がやや希薄になりつつあると言えるかもしれません。
日本型雇用が転換期を迎え、今後、働く個人の価値観もますます多様化していくことが予想されます。

2024 年 4 月 23 日

信頼関係をベースとし、個人が役割や居場所があると実感できる職場をデザインすることで、より良い職場の未来が描けるはずです。企業においては働く個人の喜びと、企業の成長を両立する職場の在り方を見つめ直すことが重要なのではないでしょうか。

レポートの内容から一部トピックスをご紹介します。

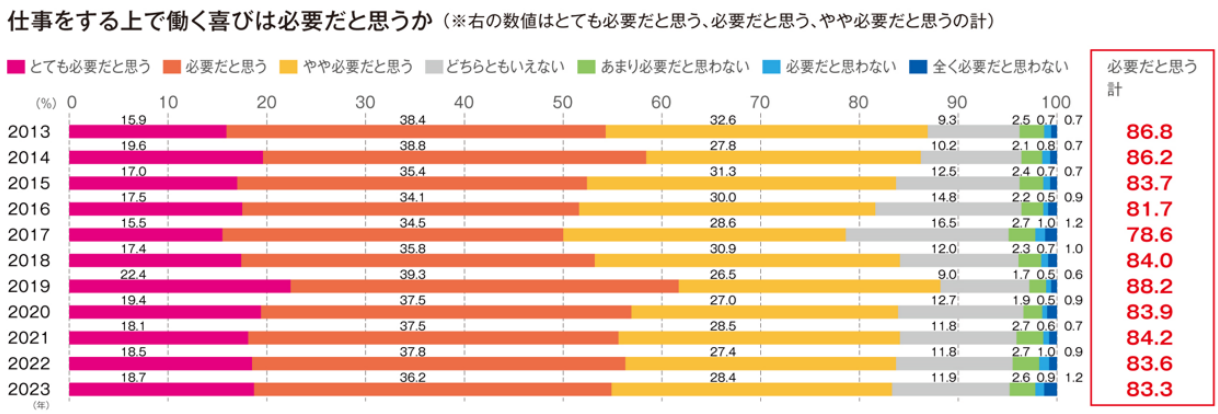
働く喜びを必要とする人は 8 割以上だが、実際に感じている人は約 4 割。この状況は 11 年間変化していない。

働く喜びを必要としている人は約 8 割

そもそも、働く上で「働く喜び」を必要としている人はどれくらいいるのでしょうか。

2019 年の調査では、88.2%の人が「働く喜び」が必要だと回答し、2017 年を除いて、毎年 80%以上の人が必要だと回答しています。

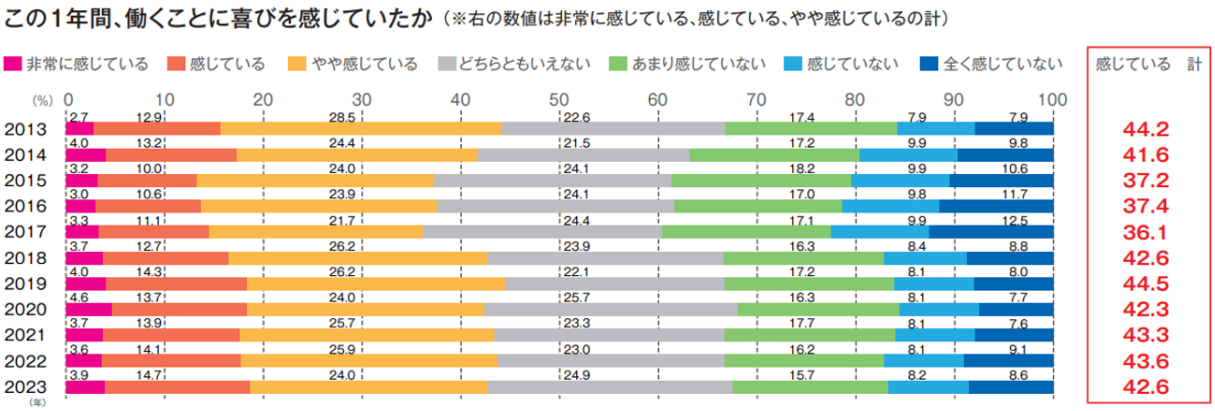
しかし、実際にこの喜びを感じている人は約 40%に限られ、おおよそ半数の人が求めているにもかかわらず感じられていないという現状です。



働く喜びを感じている人は約 4 割で推移

本調査では、「働く喜び」を感じているかどうかについて、7 件法で確認しています。過去 11 年間の推移を見ると、「働く喜び」を感じている人の割合は 2017 年を境に変化を見せています。

2013 年以降、5 年間にわたり減少傾向にあったものの、2018 年に増加に転じ、2019 年には全体の 44.5%が「働く喜び」を実感し、その後 42～44%の間で推移しています。

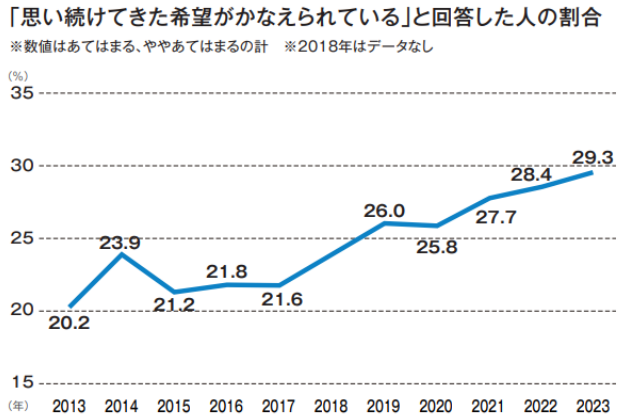


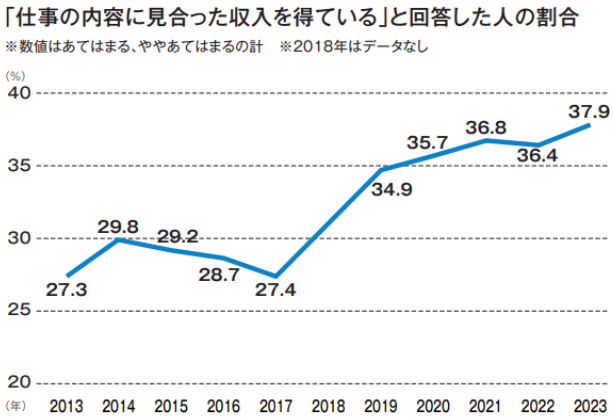
2024 年 4 月 23 日

日本の“働く”の Good（良くなった点）と Motto（改善できる点）

Good／「思い続けてきた希望がかなえられている」「仕事の内容に見合った収入を得ている」と回答した人の割合は年々増加傾向

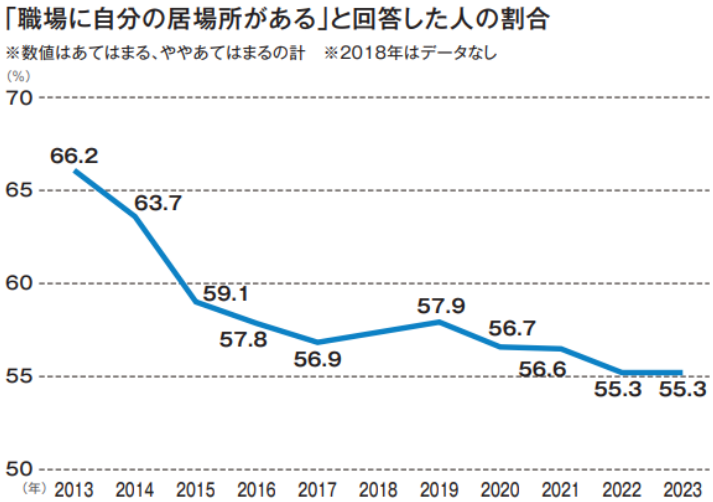
“働く”に関する具体的な項目のうち、この 11 年間でおおむね右肩上がりに増加しているものを二つ紹介します。一つは、「思い続けてきた希望がかなえられている」という項目です。この項目に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合は、2013 年から 2023 年にかけて 9.1pt 増加しました。
もう一つは、「仕事の内容に見合った収入を得ている」という項目です。こちらは 2013 年から 2023 年にかけて 10.6pt 増加しています。





Motto／「職場に自分の居場所がある」と回答した人の割合は年々減少傾向

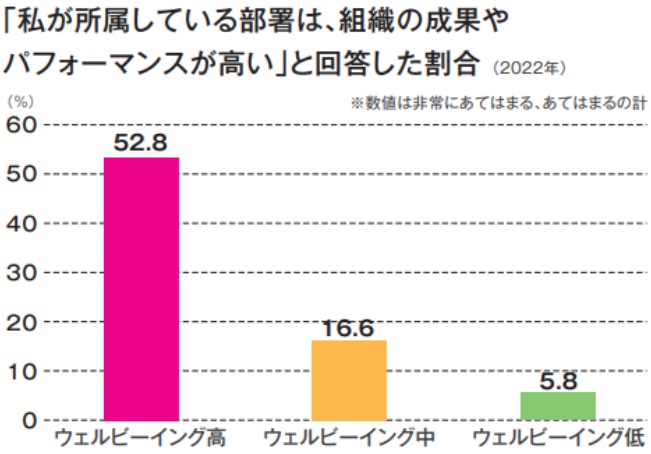
「職場に自分の居場所がある」と回答した人の割合は年々減少している傾向にあり、2013 年から 2023 年にかけて 10.9pt 減少しました。
これは、現代の職場環境で重視される心理的安全性やエンゲージメントに影響を与える重要な観点です。この傾向はコロナ禍前から始まっていましたが、ここ数年の減少の理由としては、リモートワークなど、柔軟な働き方が可能になった一方で、つながりを感じる機会が減少し、一部の人が孤独感や疎外感を抱くようになったことが考えられます。



2024 年 4 月 23 日

ウェルビーイングと組織の生産性

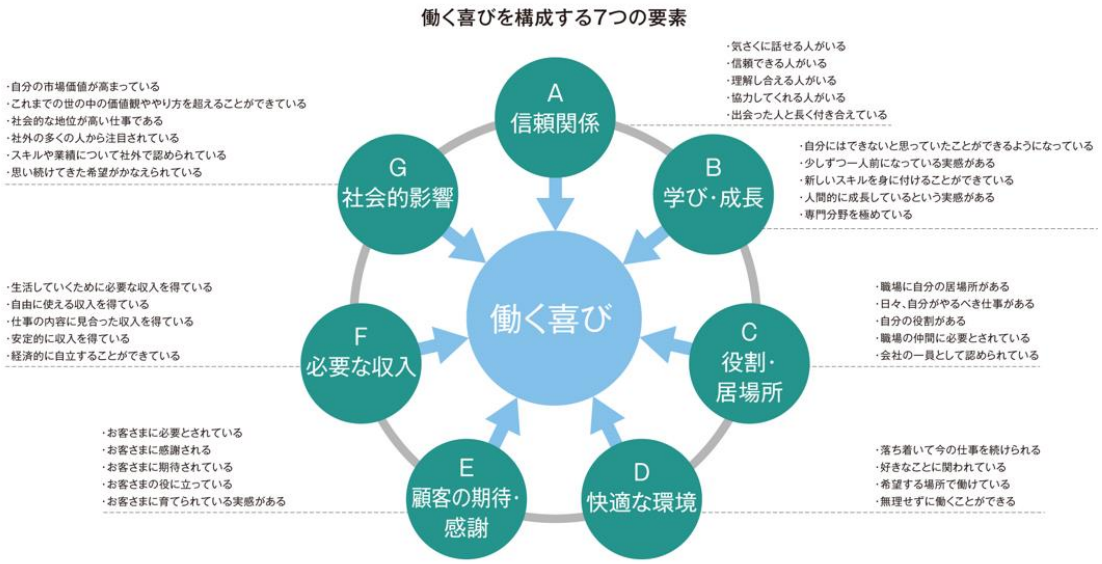
働く人の「ウェルビーイング」に着目し、組織の成果・パフォーマンスとの関係を分析しました。ウェルビーイングとは、単なる健康や幸福ではなく、仕事の充実感や生活の満足度を包括的に示す概念です。ウェルビーイングの高い群、中間群、低い群に分け、部署の成果やパフォーマンスが高いと回答した割合を見ると、ウェルビーイングが高い群は 52.8%、中間群は 16.6%、低い群は 5.8%でした。ウェルビーイングが高いと組織の成果も高いという明確な傾向が見られました。



ウェルビーイングについては「働く喜び」を構成する 7 つの要素と 35 項目からマーティン・セリグマン博士が提唱した PERMA 理論を参考に 15 項目を抽出し、合成変数を作成しました。合成変数を作成後、ウェルビーイングの高い群、中間群、低い群の 3 つに分けました。

【参考】働く喜びを構成する 7 つの要素とは

「働く喜び」を構成する 7 つの要素について紹介します。我々は「働く喜び」を多面的に捉えるために、2013 年に 54 項目の質問から 7 つの因子を定義しました。これを数回の調査を通じて検証した上で、現在は 35 項目に絞り込んでいます。具体的な 7 因子は、「信頼関係」「学び・成長」「役割・居場所」「快適な環境」「顧客の期待・感謝」「必要な収入」「社会的影響」です。各因子は、組織内での人間関係の質、個人の成長機会、仕事の意義、職場環境の快適さ、仕事を通じて達成される社会的な貢献など、働く人々が仕事に対して持つ満足感や充実感に直接影響を与えると考えています。



Press Release

2024 年 4 月 23 日

解説者：リクルート　HR 横断リサーチ推進部　研究員　菊池 満帆

新卒でパナソニック株式会社に入社し、機構設計エンジニアとして特に熱設計および CAE を用いた熱シミュレーション業務に従事。その後株式会社リクルートキャリア（現：株式会社リクルート）に入社し、ハイキャリア・グローバル・コンサルティング部に配属。営業およびコンサルタントとして、ハイキャリア領域の製造業分野の企業および求職者の支援に従事。現在は中途、新卒、アルバイト・パート領域等 HR 全般の市場調査やデータ分析を担当。

調査概要

調査方法：インターネットモニター調査
調査対象：全国の 15 歳～64 歳の就業者
調査実施期間・有効回答数：
2013 年 12 月 12 日～12 月 17 日　11,264 人
2014 年 12 月 11 日～12 月 17 日　11,839 人
2015 年 12 月 17 日～12 月 21 日　5,503 人
2016 年 12 月 15 日～12 月 21 日　5,583 人
2017 年 12 月 14 日～12 月 19 日　5,624 人
2018 年 12 月 13 日～12 月 17 日　6,983 人
2019 年 12 月 12 日～12 月 17 日　5,467 人
2020 年 12 月 23 日～12 月 28 日　9,350 人
2021 年 12 月 22 日～12 月 27 日　7,699 人
2022 年 12 月 22 日～12 月 27 日　7,461 人
2023 年 12 月 22 日～12 月 27 日　6,257 人
調査機関：インターネット調査会社

本件に関する お問い合わせ先	https://www.recruit.co.jp/support/form/

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング＆ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにない、出会い。』を提供していきます。 詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：https://recruit-holdings.com/ja/　リクルート：https://www.recruit.co.jp/